

自然環境・景観の回復のためのボランティアを募集

今から 20 年前の西表島では、海岸の崖上でソテツが悠然と構え、周りにテッポウユリの花が咲いていました。砂浜ではグンバイヒルガオ、ハマユウ、ハマゴウ等が草原の様に生えていました。しかしながら、現在は崖上でソテツを観るのは難しくなりました。月が浜、祖納海岸ではグンバイヒルガオ等はわずかに生えているに過ぎず、中野海岸では完全に姿を消しました。かつての美しい亜熱帯の景観は失われる一方です。八重山、沖縄全域でも同様な自然環境・景観の悪化が進行していると推測します。

一昨年の 11 月から、うなり崎でソテツに覆いかぶさった木、つる性植物を除去して、多くの株を枯死から救いました。この作業をした所では、つる性植物を除いて、在来草本が全く生えてきませんでした。長期間、光が当たらなかったためです。一方、覆いかぶさった植物が少なかった所では、貧弱なテッポウユリが散見されました。一年を過ぎた今春には、ソテツが明らかに勢力を回復し、テッポウユリが多くの花をつけました。

西表島は 2021 年に世界自然遺産に登録されたにもかかわらず、前記の様な自然環境（生態系）の回復のための作業はされてきませんでした。自然環境の悪化がゆっくりと進み、認識し難いのが主な理由でしょう。観光資源の確保・創出と児童生徒への教育の場提供のために、自然環境の回復作業は必須です。作業としては、除草と徐木が主になりますが、適切な在来植物の植栽も必要です。

西表島西部 6 か所で自然環境の回復・景観改善の作業を進めています。作業の協力をボランティアでお願いできないでしょうか。

- 1) うなり崎公園：回復された原風景の維持、観光のための外来植物駆除（ソテツとテッポウユリの生育環境改善）。教育への活用化。
 - 2) 子午線ふれあい館近くの造成池：水生昆虫の観察と保全のための池内除草。イリオモテヤマネコの狩場としての機能維持。周辺エリアの観光資源化。
 - 3) 祖納海岸（砂浜）：ギンネム等の外来植物を駆除した上で海浜植物園を造成。
 - 4) 祖納海岸（海域）：消失したウミショウブ藻場回復のための移植と播種実験。
 - 5) 浦内川ー干立集落間と浦内集落内の県道沿い：コウシュンシバ植栽地での除草。景観改善とヤマネコの交通事故防止。
 - 6) 浦内川ー干立集落間の県道沿い：ギンネムの駆除（駆除の最終段階）。生態系に脅威となる外来植物で、膨大に繁茂した種の区域を限定しての駆除。
- ・詳細については HP 改訂版西表庵植物園の「[ボランティア募集](#)」を参照ください。

私どもは、除草作業が大幅に軽減できるとして在来種のコウシュンシバ（一般名、コウライシバ）の植栽を勧めてきました。密生すると他の植物がほとんど生えないからです。当募集でもコウシュンシバを積極的に植えます。この雑草管理法を参加者によって他地域に広めて頂けたらと考えています。在来つる性植物のキダチハマグルマ、ノアサガオ、ヒメキランソウ等の繁茂によって雑草が抑えられるか調べていますが、参加者に繁茂の様子を観て頂きます。

・問い合わせはメール（nqf31226@nifty.com）でお願いいたします。

西表在来植物の植栽で地域振興を進める会

(<http://iriomote.image.coocan.jp/Revised2022/Revised2022.html>)

高相徳志郎